

第6章 地方部における学生のインターンシップの実証

1. 実施概要

2024年8月中旬から9月上旬にかけて、社会福祉士を目指す大学生36名を対象に、道内6地域（京極町×喜茂別町、遠別町、苫小牧市、夕張市、和寒町、浦河町）においてインターンシップを実施した。

(1) 実証地域の選定

昨年度実施した道内自治体へのアンケート調査の結果等を踏まえて、遠別町、苫小牧市、利尻町、東川町、大空町、岩見沢市の6地域に対し、受け入れを打診した。その結果、昨年度の実証地域に加え、新たに遠別町と苫小牧市が受け入れ地域として加わった。

多様なモデルの構築を目指し、各地域における実施概要は以下の通りである。

【浦河町】

期間（受入れ者数）	【中期】8/5～8/9（5名） 【長期】8/19～8/30（5名）
受入窓口	施設
社会福祉士の在籍状況	社会福祉士実習指導者講習会を受講した社会福祉士在籍中
位置づけ	専門型
学生の宿泊先等	町内宿泊施設（ゲストハウス）（買って食べる）
主な連携先	自治体の福祉課、社会福祉協議会、NPO法人、町外関係機関

【京極町×喜茂別町】

期間（受入れ者数）	【長期】8/19～8/30（4名）
受入窓口	社協×役場（包括）
社会福祉士の在籍状況	社会福祉士実習指導者講習会を受講した社会福祉士は、京極町は現在在籍中、喜茂別町は現任者が今年度に受講予定
位置づけ	専門型
学生の宿泊先等	トレーラーハウス（自炊）
主な連携先	自治体の福祉課、社会福祉協議会、社会福祉法人（社会福祉協議会を除く）、NPO法人個人事業主

【和寒町】

期間（受入れ者数）	【長期】8/19～8/30（4名）
受入窓口	役場
社会福祉士の在籍状況	社会福祉士実習指導者講習会を受講した社会福祉士はいない
位置づけ	専門型
学生の宿泊先等	町内宿泊施設（研修施設）（買って食べる）
主な連携先	自治体の福祉課、社会福祉協議会、NPO 法人

【苫小牧市】

期間（受入れ者数）	【中期】8/26～8/30（5名）
受入窓口	役場
社会福祉士の在籍状況	社会福祉士実習指導者講習会を受講した社会福祉士は在籍中
位置づけ	専門型
学生の宿泊先等	市内ホテル（買って食べる）
主な連携先	自治体の福祉課、社会福祉協議会、社会福祉法人（社会福祉協議会を除く）、NPO 法人、医療法人苫小牧港管理組合

【夕張市】

期間（受入れ者数）	【中期】8/26～8/30（5名）
受入窓口	施設
社会福祉士の在籍状況	社会福祉士実習指導者講習会を受講した社会福祉士は現在はいない、時期はわからないが今後確保したい
位置づけ	体験型
学生の宿泊先等	市内ホテル（買って食べる）
主な連携先	自治体の福祉課、医療法人、自治体の地域づくり課、一般社団法人、農協、個人

【遠別町】

期間（受入れ者数）	【中期】9/2～9/5（8名）
受入窓口	役場
社会福祉士の在籍状況	社会福祉士実習指導者講習会を受講した社会福祉士はいない
位置づけ	体験型
学生の宿泊先等	町内と町外のホテル（買って食べる）
主な連携先	自治体の福祉課、社会福祉協議会、NPO 法人、医療法人、自治体の教育委員会、消防署、合同会社、個人事業主

(2) 学生の募集

学生の募集にあたっては、昨年度のチラシ配布に加え、過去に参加した学生による参加促進の効果を測定するため、学生向けのオンライン説明会も実施した。

【募集用のチラシ】



【オンライン説明会の概要】

開催日時	2024 年 7 月 4 日（木）19：00～20：00
開催方法	オンライン（Zoom）
対象者	・ インターンシップに参加するかどうか迷っている学生 ・ チラシに記載している内容以上の情報を求めている学生 ・ 昨年度の参加経験者からの生の声を聞きたいと思っている学生 等
開催内容	第1部 本事業の趣旨や今年度のインターンシップの実施概要の説明 第2部 昨年度のフィールドワークに参加した学生からのご報告 第3部 質疑応答
参加者	15 名

チラシの配布とオンライン説明会の開催により、学生の応募者数は65名となり、当初の定員（33名）を大きく上回った。受け入れ地域との調整の結果、4名を増員し、最終的に36名の学生が参加した。

参加学生の属性は以下の通りである。

大学構成		学年構成		男女構成	
大学名	人数	大学名	人数	大学名	人数
北星学園大学	22名	1年生	15名	男性	14名
日本医療大学	5名	2年生	14名	女性	22名
北翔大学	1名	3年生	7名		
北海道医療大学	5名	4年生	0名		
北海道文教大学	1名				
札幌学院大学	2名				

2. 実施内容

(1) 事前オリエンテーションの実施

インターンシップの実施前には、参加学生を対象に、各実証地域の状況を紹介しながら、インターンシップ前後における学生の意識や変化を把握することを目的として、事前オリエンテーションを実施した。

具体的には、以下の内容に基づいて情報交換を行った。

事務局から学生に提供した情報	・行先、プログラム期間 ・実習プログラムの内容 ・集合・解散・現地の移動 ・宿泊先の情報 ・費用の負担 ・実施期間中の服装について ・困ったときの連絡先 等
学生から集めた情報	・インターンシップに参加する動機・きっかけ ・インターンシップの目的 ・インターンシップで学びたいこと・知りたいこと ・現在の自分の状態、フィールドワークを終えた後、どうなっていたいか ・事前に調べたこと(地域資源、産業、サービス等…)

(2) 各地域の実習プログラム

①浦河町 (8/5～8/9)

Day①

AM	移動：13:55 浦河ターミナル着
15:00	プログラム：インターンシップオリエンテーション 内容：本インターンシップのプログラムと達成目標等を確認する
15:30	プログラム：法人内事業所見学 グループホーム見学 内容：当法人のグループホーム等関係施設を周り、地域資源を確認する
16:00	プログラム：ケース会議 内容：受入れ施設と診療所とのケース会議に陪席し地域連携について学ぶ
17:00	プログラム：理事長講話 内容：理事長からの講話で法人設立理念やソーシャルワークについて等を学ぶ
18:30	プログラム：終了 (※夕食各自)

Day②（グループ①）

11:00	プログラム：爆発ミーティング 内容：自分を助けるプログラム（爆発 MT に参加する）
12:00	プログラム：昼休憩（※昼食各自）
13:00	プログラム： 応援ミーティング 内容：本人参加型支援会議「応援ミーティング」に参加する
15:00	プログラム：医療機関視察 内容：××診療所の視察を通じて地域医療の役割等について学ぶ
16:00	プログラム： ナイトケアプログラム参加 内容：音楽プログラムに参加しデイケア（ナイトケア）のプログラム等について理解する
18:00	プログラム：終了（※夕食各自）

Day②（グループ②）

9:00	プログラム：児童発達支援・放課後等デイサービスの視察 内容：浦河××診療所が運営する児童発達・放デイの視察・体験実習
9:30	プログラム：児童デイ体験実習 午前の部 内容：未就学児療育への参加
12:00	プログラム：昼休憩（※昼食各自）
14:00	プログラム：児童デイ体験実習 午後の部 内容：縁日イベントへの参加・運営協力
16:00	プログラム：終了

Day③（グループ①）

9:30	プログラム：浦河の子育て応援を考える会 内容：浦河の子育て応援ネットワークについて学ぶ
10:00	プログラム：夏休み特別企画への参加・運営協力 内容：子育て応援について学ぶ
12:30	プログラム：流しそうめん開始 内容：イベントの企画運営について学ぶ
13:30	プログラム：後片付け等
14:00	プログラム：終了
14:30	プログラム：日高管内相談支援連携会議 内容：日高管内の障害者相談支援について学ぶ
15:30	プログラム：日胆地区支部社会福祉士会多職種連携研修打合せ

	内容：日胆地区の職能団体の研修会についての打合せに陪席する
17:00	プログラム：A氏ソーシャルワークの講話 内容：浦河管内における地域及びソーシャルワークの魅力を知る（※夕食各自）

Day③（グループ②）

7:50	プログラム：放課後等デイサービスからし種 視察 内容：浦河××診療所が運営する放デイの視察・体験実習
8:00	プログラム：海水浴レク（一日） 内容：イベントの企画運営について学ぶ
お昼	プログラム：昼休憩（※昼食：お弁当）
17:00	プログラム：終了後、A氏ソーシャルワークの講話 内容：浦河管内における地域及びソーシャルワークの魅力を知る（※夕食各自）

Day④

9:30	プログラム：メンバー朝 MT 内容：朝 MT への参加で自分助けや活動、生活上の工夫を知る
10:00	プログラム：メンバーからの受け入れ施設のオリエンテーション 内容：受け入れ施設の役割等について知る
11:00	プログラム：当事者研究ミーティング 内容：当事者研究に参加し自分の当事者研究を行う
12:00	プログラム：昼休憩
13:00	プログラム：農福連携 農作業体験 内容：就労 B の作業に参加し就労支援や農福連携について知る
15:00	プログラム：休憩（※宿泊先等で自由に休憩）
17:00	プログラム：相談支援事業所視察 内容：相談支援事業所の視察を行い浦河管内の障害者相談支援について学ぶ
18:00	プログラム：一週間お疲れ様会（※夕食：学生の歓迎会）
20:00	プログラム：終了

Day⑤

10:30	プログラム：身体調気分 内容：自分を助けるプログラム（体調気分の確認の重要性について学ぶ）
11:00	プログラム：金曜ミーティング 内容：自分を助けるプログラム（よかったことの共有や苦労の情報公開について学ぶ）

12:00	プログラム：昼休憩
13:00	プログラム：診療所プログラム（地域交流企画）参加 内容：哲学カフェに参加し地域プログラムの効果等について知る
15:00	プログラム：一週間の振り返り 内容：一週間のフィールドワークの振り返りを行う
16:00	プログラム：終了
16:35	バスで移動（浦河ターミナル発→札幌）

②浦河町（8/19～8/30）

Day①

AM	移動：13:55 浦河ターミナル着
15:00	プログラム： インターンシップオリエンテーション 内容：本インターンシップのプログラムと達成目標等を確認する
15:30	プログラム：法人内事業所見学 グループホーム見学 内容：当法人のグループホーム等関係施設を周り、地域資源を確認する
16:00	プログラム：浦河町精神連携会議 内容：連携会議（浦河町、保健所、医療機関等）に陪席し精神保健福祉連携について学ぶ
17:00	プログラム：法人内事業所見学 グループホーム見学 内容：当法人のグループホーム等関係施設を周り、地域資源を確認する
17:30	プログラム：終了（※夕食各自）

Day②（グループ①）

10:00	プログラム：理事長講話 内容：理事長からの講話で法人設立理念やソーシャルワークについて等を学ぶ
11:00	プログラム：当事者研究ミーティング 内容：当事者研究に参加し障害当事者の当事者研究活動について知る
12:00	プログラム：昼休憩（※昼食各自）
13:00	プログラム：応援ミーティング 内容：本人参加型支援会議「応援ミーティング」に参加する
15:00	プログラム：グループホーム視察 内容：グループホームでのメンバーの生活状況及び生活支援について学ぶ
18:00	プログラム：ウェルカムパーティー（※夕食：学生の歓迎会）

Day②（グループ②）

10:00	プログラム：理事長講話 内容：理事長からの講話で法人設立理念やソーシャルワークについて等を学ぶ
11:00	プログラム：当事者研究ミーティング 内容：当事者研究に参加し障害当事者の当事者研究活動について知る
12:00	プログラム：昼休憩（※昼食各自）
14:00	プログラム：児童発達支援・放課後等デイサービスぶどうの木視察 内容：浦河××診療所が運営する児童発達・放デイの視察・体験実習
17:40	プログラム：終了
18:00	プログラム：ウェルカムパーティー（※夕食：学生の歓迎会）

Day③

9:30	プログラム：メンバー朝 MT 内容：朝 MT への参加で自分助けや活動、生活上の工夫を知る
10:00	プログラム：リカバリーカレッジ from 中村創 Ns. 内容：自分を助けるプログラム：メンバーのリカバリーについて知る、テーマ「怒り」
12:00	プログラム：昼休憩（※昼食各自）
13:00	プログラム：農福連携 作業体験 内容：就労 B の作業に参加し就労支援や農福連携について知る
15:00	プログラム：相談支援事業所視察 内容：相談支援事業所の視察を行い浦河管内の障害者相談支援について学ぶ
16:00	プログラム：終了（※夕食各自）

Day④

9:00	プログラム：浦河町→えりも町へ移動（※車で移動）
10:00	プログラム：小規模多機能型居宅介護施設視察 内容：えりも町内のニーズから生まれた小多機について知る
12:00	プログラム：昼休憩（※昼食各自）
13:00	プログラム：B 氏住職による講話 内容：地域活動について知る
15:00	プログラム：えりも町→浦河町へ移動（※車で移動）
16:00	プログラム：浦河着・休憩
17:00	プログラム：A 氏ソーシャルワークの講話 内容：浦河管内における地域及びソーシャルワークの魅力を知る（※夕食各自）

Day**⑤**

10:00	プログラム：浦河××幼稚園視察
12:00	プログラム：終了・昼休憩
13:30	プログラム：一週間の振り返り 内容：一週間のフィールドワークの振り返りを行う
15:00	プログラム：終了

Day**⑥**（グループ①）

10:00	プログラム：音楽プログラム 内容：自分を助けるプログラム：音楽プログラムに参加する
11:30	プログラム：昼休憩（※昼食各自）
13:00	プログラム：当事者研究ミーティング 内容：当事者研究に参加し自分の当事者研究を行う
14:30	プログラム：浦河町内ツアー
16:00	プログラム：ケース会議 内容：受入れ施設と診療所とのケース会議に陪席し地域連携について学ぶ
17:30	プログラム：終了（※夕食各自）

Day**⑥**（グループ②）

10:00	プログラム：音楽プログラム 内容：自分を助けるプログラム：音楽プログラムに参加する
11:30	プログラム：昼休憩（※昼食各自）
12:30	プログラム：放課後等デイサービスの視察 内容：浦河××診療所が運営する放デイの視察・体験実習
18:30	プログラム：終了（※夕食各自）

Day**⑦**（グループ①）

9:30	プログラム：就労サポートセンター体験実習 内容：生活介護事業所のプログラムに参加しメンバーの特徴や日中活動支援等を知る
12:00	プログラム：昼休憩（※昼食各自）
15:00	プログラム：医療機関視察 内容：ひがしまち診療所の視察を通じて地域医療の役割等について学ぶ
16:00	プログラム：ナイトケアプログラム参加 内容：音楽プログラムに参加しデイケア（ナイトケア）のプログラム等について

	理解する
18:00	プログラム：終了（※夕食各自）

Day⑦（グループ②）

9:30	プログラム：就労サポートセンター体験実習 内容：就労B事業所のプログラムに参加しメンバーの特徴や就労支援等を知る
12:00	プログラム：昼休憩（※昼食各自）
15:00	プログラム：医療機関視察 内容：××診療所の視察を通じて地域医療の役割等について学ぶ
16:00	プログラム：ナイトケアプログラム参加 内容：音楽プログラムに参加しデイケア（ナイトケア）のプログラム等について理解する
18:00	プログラム：終了（※夕食各自）

Day⑧（グループ①）

9:30	プログラム：就労サポートセンター体験実習 内容：生活介護事業所のプログラムに参加しメンバーの特徴や日中活動支援等を知る
12:00	プログラム：昼休憩（※昼食各自）
12:30	プログラム：浦河町→えりも町へ移動
14:00	プログラム：カフェデモンクえりも参加 内容：傾聴喫茶に参加し地域活動について学ぶ
16:00	プログラム：えりも町→浦河町へ移動
17:00	プログラム：終了（※夕食各自）

Day⑧（グループ②）

9:30	プログラム：就労サポートセンター体験実習 内容：就労B事業所のプログラムに参加しメンバーの特徴や就労支援等を知る
12:00	プログラム：昼休憩（※昼食各自）
12:30	プログラム：浦河町→えりも町へ移動
14:00	プログラム：カフェデモンクえりも参加 内容：傾聴喫茶に参加し地域活動について学ぶ
16:00	プログラム：えりも町→浦河町へ移動
17:00	プログラム：終了（※夕食各自）

Day⑨

10:00	プログラム：オープンダイアログ 内容：自分を助けるプログラム（オープンダイアログに参加する）
12:00	プログラム：昼休憩（※昼食各自）
13:00	プログラム：農福連携 作業体験 内容：就労Bの作業に参加し就労支援や農福連携について知る
15:00	プログラム：終了（※夕食各自）

Day⑩

10:30	プログラム：身体調気分 内容：自分を助けるプログラム（体調気分の確認の重要性について学ぶ）
11:00	プログラム：金曜ミーティング 内容：自分を助けるプログラム（よかったことの共有や苦労の情報公開について学ぶ）
12:00	プログラム：昼休憩
13:30	プログラム：一週間の振り返り 当事者研究 内容：当事者研究を交えて 一週間のフィールドワークの振り返りを行う
16:00	プログラム：終了
16:35	バスで移動（浦河ターミナル発→札幌）

【実施中の写真】



③京極町×喜茂別町

Day①

AM	札幌から宿泊先への移動（バス 11:30 札幌市発→13:16 喜茂別町着）
14:30	◎目標：町の生活をイメージしてもらうこと ◎内容：京極町の紹介、オリエンテーション、町の散策 【w/指導者京極町】 ◎移動：指導者による送迎

16:30	◎内容：宿泊先への移動 ◎移動：バス（16:43 京極町発→16:57 喜茂別町着）
-------	---

Day②

9:05	◎目標：利用者の状態や思いを知ってもらうこと ◎内容：担当人物の紹介と ICF で自分をアセスメントする 【w/指導者喜茂別町】 ◎集合：9:05 に喜茂別町包括 ◎移動：喜茂別町営バス（8:59××発→9:04××着）
11:45	昼休憩と移動
13:30	◎目標：地域の居場所や支えについて考えてもらうこと ◎内容：京極町住民主体の通いの場の見学 【w/指導者京極町】 ◎集合：13:15 に京極町社協 ◎移動：バス（12:07 喜茂別町発→12:22 京極町着）
16:00	今日の振り返り 【w/指導者京極町】
16:30	宿泊先への移動 ◎移動：バス（16:43 京極町発→16:57 喜茂別町着）

Day③

10:00	◎目標：地域の居場所や支えについて考えてもらうこと ◎内容：京極町共生型地域福祉拠点で住民さんと交流 【w/指導者京極町】 ◎集合：9:57 にバス停 ◎移動：バス（9:42 喜茂別町発→9:57 京極町着）
12:00	昼休憩
13:30	◎目標：地域住民とのコミュニケーションのやり方について考えてもらうこと ◎内容：2 チームに分けて高齢者への訪問 【w/指導者京極町及び喜茂別町】 ◎集合：13:30 に京極町社協、喜茂別町包括に集合 ◎移動：指導者による送迎
16:00	今日の振り返り 【w/指導者喜茂別町】 ◎集合：16:00 に喜茂別町包括
17:00	宿泊先への移動（徒歩）

Day④

AM	◎目標：地域住民とのコミュニケーションのやり方について考えてもらうこと ◎内容：2 チームに分けて高齢者への訪問 【w/指導者京極町及び喜茂別町】 ◎集合：京極町は 9:57 にバス停、喜茂別町は 9:05 に包括 ◎移動： 京極町はバス（9:42 喜茂別町発→9:57 京極町着） 喜茂別町は町営バス（8:59××発→9:04××着）
12:00	昼休憩と移動（指導者による送迎）

13:00	◎目標：障がい者への援助支援について考えてもらうこと ◎内容：障害者支援施設体験&見学 【w/指導者喜茂別町】 ◎集合：13:00 にカフェ ◎移動：指導者による送迎
16:00	今日の振り返り 【w/指導者喜茂別町】
17:00	宿泊先への移動（徒歩）

Day⑤

10:00	◎目標：高齢者支援や特養の在り方について考えてもらうこと ◎内容：京極町特養の見学 【w/指導者京極町】 ◎集合：9:50 にバス停 ◎移動：バス（9:42 喜茂別町発→9:50 京極町着）
12:00	昼休憩と移動（指導者による送迎）
13:30	町内散策と今週の振り返り（感想+質疑応答） 【w/指導者喜茂別町】
18:00	歓迎会

休日 2 日間

Day⑥

AM	◎目標：地域住民とのコミュニケーションのやり方について考えてもらうこと ◎内容：2 チームに分けて高齢者への訪問 【w/指導者京極町及び喜茂別町】 ◎集合：京極町は 9:57 にバス停、喜茂別町は 9:05 に包括 ◎移動： 京極町はバス（9:42 喜茂別町発→9:57 京極町着） 喜茂別町は徒歩
12:00	昼休憩と移動（指導者による送迎）
13:30	◎目標：多職種連携の在り方について考えてもらうこと ◎内容：昨年度のケースに関する学生からの意見収集 【w/指導者喜茂別町】
16:00	今日の振り返り（感想+質疑応答） 【w/指導者喜茂別町】
17:00	宿泊先への移動（徒歩）

Day⑦

9:00	◎目標：情報整理や企画提案について考えてもらうこと ◎内容：事前準備第 1 回 【指導者なし】 会場の下見、参加者名簿の作成、参加者のグループの分け、必要な備品種類・量や購入場所の確認、当日運営や進行のシナリオ作り、会場のレイアウト作りをやる。案を作成後、LINE で講師に提案して最終確認、講師への配布資料の確認 ◎集合：9:00 に喜茂別町××センター ◎移動：徒歩
------	---

12:00	昼休憩
13:00	◎目標：アセスメントの結果から支援計画の作成への流れについて考えてもらうこと ◎内容：お互いの進捗確認、移動支援の実施方法の確認【w/指導者喜茂別町】
16:00	今日の振り返り（感想＋質疑応答）【w/指導者喜茂別町】

Day⑧

9:05	◎目標：コーディネーションについて考えてもらうこと ◎内容：事前準備第2回【w/指導者喜茂別町】 関係者への時間の連絡、高齢者に時間の通知等 ◎集合：9:05 に喜茂別町包括
12:00	昼休憩
13:00	◎目標：地方で暮らしている高齢者の買い物という課題について考えてもらうこと ◎内容：イベント当日用食材・備品の買い出し【指導者なし】
16:00	◎内容：今日の振り返り（感想＋質疑応答）【w/指導者喜茂別町】 ◎集合：16:00 に喜茂別町××センター

Day⑨

9:30	◎目標：計画の実行について考えてもらうこと ◎内容：会場の設置【指導者なし】
11:00	昼休み
12:20	◎目標：高齢者への援助について考えてもらうこと ◎内容：イベント開催の最終確認【指導者なし】
13:30	◎目標：計画の実行について考えてもらうこと ◎内容：イベントの開催【w/指導者喜茂別町と京極町】
15:30	会場の片づけ
16:30	◎目標：社会福祉士としての役割について考えてもらうこと ◎内容：全体の振り返り【w/指導者喜茂別町、京極町、指導教員】 ◎集合：16:30 に喜茂別町××センター
18:30	宿泊先への移動（徒歩）

Day⑩

9:30	宿舎の清掃等
11:30	◎内容：送別ランチ会 ◎集合：11:30 に飲食店 ◎移動：指導者による送迎
13:00	喜茂別の宿泊先→札幌へ移動（13:51 喜茂別町発～15:40 札幌市着）

【実施中の写真】



④和寒町

Day①

AM	和寒駅まで学生を迎えに行く（10:00 札幌発→12:04 和寒着） 宿泊先にチェックイン、カフェまで送る、カフェで昼食
	目標：【街並みを知る】実際の生活を考え「何があって何がないか」を意識する 内容：町内散策（商店街、公共施設、コンビニ等 地図を用意） 移動：自転車
15:00	内容：オリエンテーション（ふれあいルーム） 町長挨拶、課長・室長紹介、スケジュール説明、ネームプレート作り
15:30	内容：【講話】社福としての現在の活動状況、社協による地域福祉事業 ふくまちプロジェクトの取り組み
16:30	収穫体験
18:00	歓迎会

Day②

9:30	内容：【オリエンテーション】スケジュール・プログラムの狙いを説明
10:30	目標：町内の住宅事情を知る 内容：【見学】高齢者単身向住宅・単身者向賃貸住宅・高齢者共同福祉住宅 移動：自転車
11:30	内容：【実習】高齢者のデイサービス、レクに参加、昼食 移動：自転車
13:00	内容①：【講話】社福としての現在の活動状況 内容②：【実習】 ○高齢者のデイサービスレクに参加

	○特別養護老人ホーム施設見学、職員とのディスカッション 移動：自転車
16:00	今日の振り返り、明日のスケジュール確認

Day③

9:00	内容：【実習（現場）】高齢者の在宅支援サービス ケアマネ～利用者宅訪問 ヘルパー～利用者宅訪問 移動：自動車送迎
10:30	内容：【実習（現場）】デイ ケアマネ・ヘルパー実習終了後事業所へ案内 昼食 移動：自動車送迎
13:30	目標：町民の思いに触れる 内容：【討議】ふくしのまちづくり住民説明会
15:00	目標：学童保育の現場を知る 内容①：【実習】放課後等の交流 内容②：【講話】子育て支援クリエーターとしての活動 移動：自転車
16:30	今日の振り返り、明日のスケジュール確認

Day④

7:45	目標：高齢者のくらしや余暇に触れる 内容：【交流】パークゴルフ、講話等、昼食 移動：自動車送迎
14:00	内容：【実習】高齢者のグループホーム施設見学、職員とのディスカッション 移動：自動車送迎
16:00	目標：他業種間での情報共有 内容：【実習（居宅情報会議）】他業種間（居宅、包括、介護保険、社協）での情報共有
17:00	夕食（希望者の配食）
18:00	目標：町民の思いに触れる 内容：【討議】ふくしのまちづくりラボ テーマは「創作」
20:00	目標：星降る夜に語ろう 内容：【体験（星空見学）】××森林公園 移動：自動車送迎

Day⑤

12:30	内容：【オリエンテーション】スケジュール・プログラムの狙いを説明、昨日の
-------	--------------------------------------

	振り返り
13:00	内容：【見学】高齢者の集いの場 おしゃべりやレクに参加 移動：自転車
14:00	内容：【体験】（スポーツ玉入れ）和寒発祥のオリジナル玉入れ 移動：自動車送迎
16:00	内容：【体験】（スキー場体験）ゲレンデを逆走 ゴールは絶景 移動：自動車送迎
17:00	夕食各自

Day⑥

10:00	内容：【オリエンテーション】スケジュール・プログラムの狙いを説明、昨日の振り返り
10:30	内容：移住者からの体験談 湧水を使ったコーヒーに舌鼓 昼食 移動：自動車送迎
13:00	内容：移住者からの体験談 モノづくりも体験 移動：自動車送迎
16:00	今日の振り返り 夕食各自

Day⑦

9:00	内容：【オリエンテーション】スケジュール・プログラムの狙いを説明
9:30	内容：【実習】障がい者（児）とのふれあい 地域活動支援センター
11:30	昼食各自
13:00	内容：【実習（ケース会議）】障がい者（児）に対するケース会議 地域活動支援センター
15:00	目標：入居者減少となった高齢者住宅の未来を考える 内容：【討議】高齢者共同住宅の有効活用、新しい視点でアイデア募集
16:00	目標：高齢者の食事情を知る 内容：【実習（配食サービス）】2班に分かれて社協ボランティアに同行 移動：自動車送迎
17:00	夕食各自

Day⑧

7:30	内容：【実習（民生委員児童委員交流会）】会場準備、交流会参加
12:00	昼食

12:45	内容：【実習（民生委員児童委員交流会）】会場準備、交流会参加
14:30	今日の振り返り

Day⑨

9:00	内容：【オリエンテーション】スケジュール・プログラムの狙いを説明
9:30	目標：幼児保育を学ぶ 内容：実習（保育所） 移動：自転車
12:00	昼食各自
13:30	目標：和寒町をPRするキャッチコピーを考える 内容：【交流（ふくまちプロジェクトチーム）】それぞれの視点で和寒町で感じることを語る
15:30	目標：今後のフィールドワークの募集素材や町の紹介動画として使用 内容：【個人ワーク（動画作成）】滞在期間中に記録した素材を編集する
18:00	内容：【交流】激励会、動画発表 期間中、関わっていただけた方を招待 作成した動画を発表

Day⑩

10:00	宿泊先チェックアウト 自動車送迎 内容：【討議（振り返り）】 フィールドワークを通しての感想、和寒町で暮らし続けるために必要な機能・アイデア
12:00	昼食
13:30	【解散式】振り返りで出された意見を発表、終了挨拶、記念写真
14:30	和寒駅まで自動車送（15:21 和寒発～17:25 札幌着）

【実施中の写真】



⑤苫小牧市

Day①

12:00	昼食
13:00	内容：オリエンテーション
13:30	内容：意見交換（意気込み、現状等確認） 市福祉職対応（福祉職他、生活保護及び子ども分野の福祉職も参加予定）
15:00	内容：市内散策（晴天時）苫小牧港視察→ボート乗車予定、北大演習林等
18:00	歓迎会

Day②

9:00	市総合福祉課対応（生活困窮者自立支援担当） ①事業概要説明；②個別ケース検討；③シェルター見学；④就労準備支援面談同席等
12:00	昼食
13:00	××文化交流サロン対応（共生型地域福祉拠点） ①館内案内+事業概要説明；②サロン周辺活動（見守り等）

Day③

9:00	社会福祉協議会対応（ふれあいサロン出前講座）
12:00	昼食
13:00	社会福祉協議会対応 目標①：子ども・若者の居場所事業 内容①：コミュニティカフェ見学 目標②：ヤングケアラー支援の一環 内容②：こども・若者そうだん所見学

Day④

9:00	市内事業所訪問（介護分野）××地域包括支援センター 内容①：包括支援センター等に関する概要説明 移動①：自動車送迎 内容②：高齢者介護予防教室参加（体操）→終活支援に関する講義も行う予定
13:00	昼食 市内事業所訪問（障害分野）（地域生活支援センター） 内容①：あいサポーター研修（市実施） 内容②：ピアサポーターとの交流等 流しそうめんレクあり

Day⑤

9:00	市発達支援課訪問（児童発達支援/地域生活支援担当） 内容①：事業概要説明 移動①：徒歩 内容②：施設/指導見学
12:00	昼食
13:00	市福祉職対応（意見交換会） 振り返り等
14:30	閉会

【実施中の写真】



⑥夕張市

Day①

10:47	バスターミナル到着、歩いて福祉施設へ向かう ◎学びのポイント:地域を歩くことで、都会との違いや田舎の交通機関の実情を知る
11:15	福祉施設到着、自己紹介・予定等の確認 ◎学びのポイント:自己紹介での自己表現、インターンシップの目的を言語化して伝える
11:45	昼食
12:45	夕張市役所へ移動（車で送迎）
13:00	夕張市職員との交流会 「3年後、財政再生団体終了後の夕張の明るい未来について」 ◎学びのポイント: 財政破綻が終わる3年後を見据えて夕張の明るいビジョンを学ぶ
14:00	夕張市農協へ移動（車で送迎）

14:30	夕張市農協「夕張メロンについて」 ◎学びのポイント：夕張のNo.1名物「夕張メロン」の歴史と苦労を学ぶ
15:30	地方創生関連の一般社団法人へ移動（車で送迎）
16:00	地方創生関連の一般社団法人「夕張へ移住・企業」 ◎学びのポイント：大家族で札幌から夕張に移住し、企業した××さんにその思いと夕張での可能性を学ぶ
17:30	今日の振り返り
18:00	宿泊先へ移動

Day②

9:00	オリエンテーション ◎学びのポイント：受け入れ福祉施設の理念を学ぶ
9:40	【グループ①】就労Bでの体験（配達準備等） ◎学びのポイント：障害者の就労支援と地域の高齢者への支援の関わりを知る
	【グループ②】就労Bでの体験（カフェの見学と体験） ◎学びのポイント：障害者の就労支援で行う地域の食堂を知る
	【グループ③】児童発達支援での体験（児童への食事介助等） ◎学びのポイント：保育園での受け入れ困難ケースを知る
	【グループ④】高齢者施設の利用者との交流 ◎学びのポイント：高齢者の地域での生活事情を知る
14:00	障がい者支援施設の見学 ◎学びのポイント：就労Aの一般就労に近い働き方を知る
15:00	障害者、高齢者、子どもとの交流会 ◎学びのポイント：障害者、高齢者、子どもとの交流を体験する
17:00	今日の振り返り
18:00	夕食

Day③

8:20	徒歩でバス停へ→バス移動（8:41××発→9:16××着）→徒歩で猫カフェへ ◎学びのポイント：地方の交通機関の実情を知る
9:20	猫カフェ「猫と高齢者とケアマネ」 ◎学びのポイント：在宅高齢者の介護・ペットの問題を考える
12:00	併設のカフェで昼食
13:00	診療所へ移動（車で送迎）
13:30	診療所「介護と民謡文化の人」

	◎学びのポイント：自然なデイサービスの雰囲気や夕張市の「お風呂」に困る住民・高齢者の実情を知る
14:45	保育園へ移動（車で送迎）
15:00	保育園「夕張の里山保育」 ◎学びのポイント：里山保育への思いを知る
16:10	今日の振り返り（車で福祉施設へ移動）
17:50	バスで宿泊先へ移動（17:50××発→17:58××着）

Day④

8:40	徒歩でガイドさん宅へ移動
9:00	一日夕張ガイド「夕張の歴史と現状」 ◎学びのポイント：夕張の炭鉱時代から財政破綻、現在に至るまでのことを学ぶ
17:00	ガイド終了
18:00	ガイドさんと夕食会

Day⑤

9:00	宿泊先出発
9:30	展望公園散策
11:00	山小屋「夕張岳のお話し」と昼食 ◎学びのポイント：夕張岳を守るための取組を知る
13:00	展望公園から福祉施設へ移動
14:00	全体の振り返り ◎学びのポイント：インターンシップ前後の夕張への認識の変化を共有
15:30	バス停へ移動（終了）

【実施中の写真】



⑦遠別町

Day①

午前	移動…〔バス 札幌市 8:00 発→遠別町 12:04 着〕 昼食…各自（コンビニで購入し役場で食べてもよい、道の駅やレストランに食べに行っても良い）
13:15	遠別町役場来庁
13:30	挨拶回り ①オリエンテーション・包括支援系の業務内容；②福祉課長のお話； ③訪問のインタビュー内容話し合い
15:00	（公用車）④診療所見学、他町内のドライブ
17:30	（徒歩）夕食…役場職員等と懇談
19:20	宿泊先への移動【町内グループ（徒歩）、町外グループ（バス）】 移動…〔バス 遠別町 19:34 発→近隣町村 19:56 着〕

Day②

	【集合時間と場所】9:00 に役場 移動…〔バス 近隣町村 8:20 発→遠別町 8:48 着〕
9:00	⑤福祉系の業務内容；⑥保健系の業務内容の紹介
10:20	（徒歩）⑦高齢者訪問体験
11:30	昼食…各自
12:40	（徒歩）⑧「認知症予防セミナー」（認知症予防教室）運営補助
15:30	⑨ミニカンファレンス（今日の振り返り）
16:00	宿泊先への移動【町内グループ（徒歩）、町外グループ（沿岸バス）】 移動…〔バス 遠別 16:16 発→近隣町村 16:41 着〕 夕食…各自

Day③

8:20	【集合時間と場所】9:00 に役場 移動…〔バス 近隣町村 8:20 発→遠別町 8:48 着〕
9:00	（公用車）⑩ 1 次産業訪問（漁業）
12:00	昼食…各自
13:00	（徒歩）⑪人生会議（ACP）連携（多職種連携）・消防署訪問
14:00	（公用車）⑫居宅介護支援事業所ケアマネ訪問
15:00	⑬ミニカンファレンス（今日の振り返り）
16:00	宿泊先への移動【町内グループ（徒歩）、町外グループ（沿岸バス）】

	移動…〔バス 遠別町 16:16 発→近隣町村 16:41 着〕 夕食…各自
--	---

Day④

8:20	【集合時間と場所】 9:00 に役場 移動：〔バス 近隣町村 8:20 発→遠別町 8:48 着〕 ＊荷物持参
9:00	⑭保健指導係の業務内容
9:30	⑮町長へのインタビュー
10:30	⑯インターンシップのまとめ・学んだこと
11:00	挨拶周り・プログラム終了
11:10	移動…〔バス 遠別町 11:36 発→札幌市 15:45 着〕 ＊コンビニで昼食購入

【実施中の写真】



3. 実施結果

(1) 結果のまとめ

実証の効果を測定するため、インターンシップ終了後に、受け入れ地域および参加学生による評価を実施した。

評価者	実施方法
受け入れ地域	指導者全員を対象としたアンケート調査を実施
学生	学生全員を対象としたアンケート調査及びインタビュー調査を実施

今回のインターンシップを通じて得られた成果および明らかとなった課題は、以下の通りである。

成果	・ 今回のインターンシップについては、地域担当者および学生全員から高い評価を得た。 ・ 短期・中期・長期コースのモデル、広域連携モデル、受入れ先と教員の連携モデルの複数の形態を実証し、それぞれの課題を明確にした。 ・ 地方部での実習を実施するにあたり、学生や養成校のニーズを再確認し、新規地域における理想的な受入れモデルを確認できた。 ・ 学生の受入れを契機に、喜茂別町では、実習指導者講習会を受講する社会福祉士の確保に向けた取り組みが始まっている。さらに、来年度に向けて予算の確保を検討している自治体もある。
課題	・ 関係者（関心のある学生、受入れ地域、養成校の教員）への情報発信を行うため、ホームページなどのメディア媒体の整備が求められる。 ・ 社会福祉士の実習指導者がいない場合でも、実習プログラムの作成や学生指導が可能となるようなネットワークの構築が必要である。 ・ 学生の受入れに関心を持つ地方部では、国家資格対応の実習を直ちに開始するのは難しいのが現状である。そのため、まずインターンシップを実施し、その後に国家資格対応の実習を整備するプロセスが必要となる。こうした地域への学生送出しに対する養成校の理解を促進することが重要である。

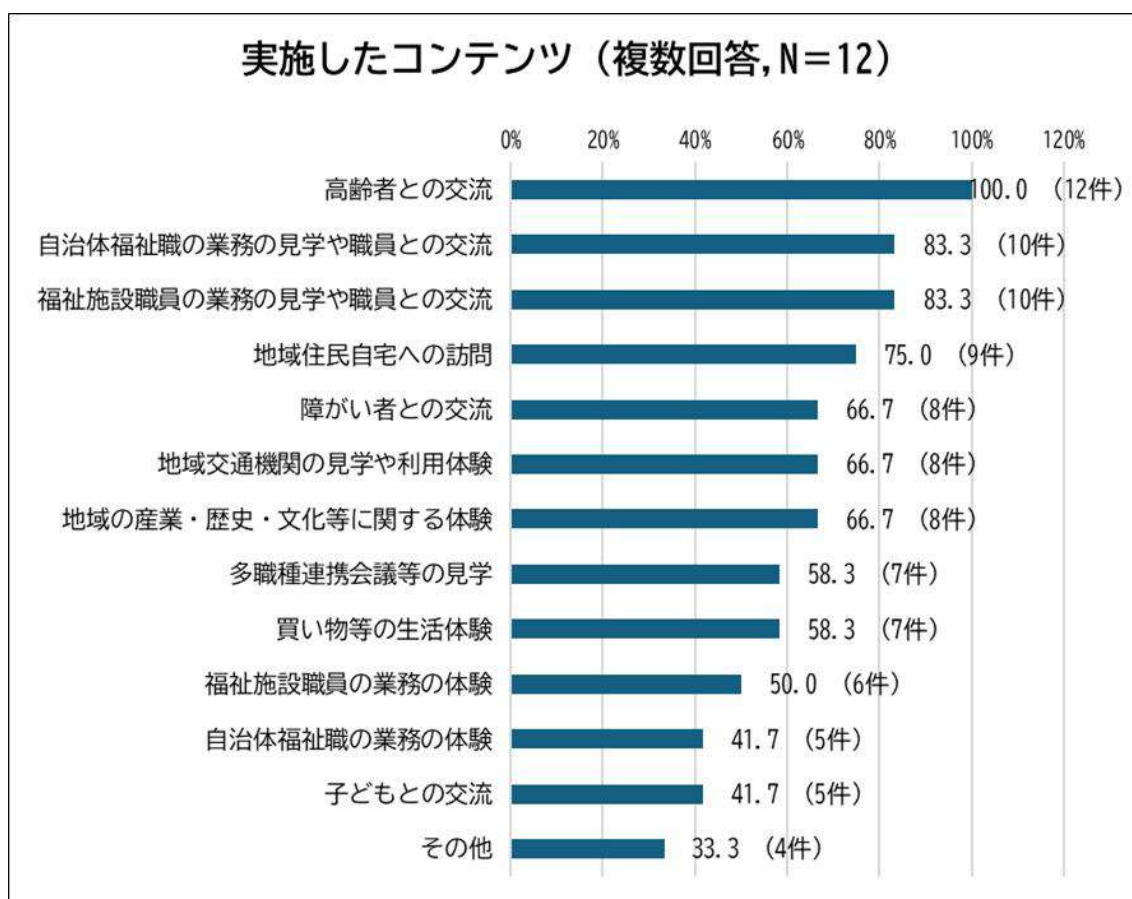
(2) 受入れ地域による評価

各地域の指導者を対象にアンケートを実施したところ、全地域から計 12 名の指導者より回答を得ることができた。

①導入されたコンテンツ

各地域で実施した内容について、「高齢者との交流」はすべての地域で取り込まれており、「自治体福祉職の業務の見学や職員との交流」や「福祉施設職員の業務の見学や職員との交流」の実施率が高くなっている。

その他について、「一次産業体験」や「地域住民との交流」、「地域のお菓子作り教室運営プロセスの体験、実行」等が実施されている。



②プログラム完成度に対する満足度と一番苦勞したこと

実施したプログラムの完成度については、全地域の全指導者から満足との評価をいただいた。また、今回のインターンシップ受け入れにあたり、最も苦勞した点として、実習指導者講習会を受講した社会福祉士が在籍していない地域では「プログラムの作成」と回答した人数が多かった。

実施先	評価者数	満足度の詳細	一番苦勞したこと
京極町×喜茂別町	5名	とても満足（1名） やや満足（4名）	宿泊先の確保や宿泊先の環境整備（2名） 担当者の確保（組織内の調整含む）（2名） 学生の現地移動手段の確保（1名）
浦河町① (8/5～9)	1名	やや満足（1名）	夏休みで他の学生も多い時期だったこと
浦河町② (8/19～30)	1名	やや満足（1名）	他の学生も多くいる時期だったこと、学生と利用者等との距離の取り方について
夕張市	1名	やや満足（1名）	プログラムの作成
和寒町	1名	やや満足（1名）	プログラムの作成
遠別町	2名	とても満足（2名）	プログラムの作成（1名） 宿泊先の確保や宿泊先の環境整備（1名）
苫小牧市	1名	やや満足（1名）	連携先の施設・機関等との調整

③実施効果

道内地方部の魅力に関する学生の理解については、全地域から「深まった」との回答をいただいた。一方、ソーシャルワークの実践に関する学生の理解については、夕張と苫小牧では「深まった」という声がなかった。

	とても そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	全くそう思 わない
道内地方部の魅力について、 学生の理解は深まったか	2名	10名	0名	0名
ソーシャルワークの実践について、 学生の理解は深まったか	2名	8名	2名	0名

④今回実施したプログラムのよかったところ

今回実施したプログラムのよかったところとして、夕張市や和寒町、遠別町、苫小牧市では地域住民との交流や町の特徴を知る機会が得られたこと、浦河町では法人外や町外との連携が進んだこと、京極町と喜茂別町では関連性のあるプログラムの実施を通じて学生の成長が確認できたことが挙げられた。詳細は下記の通り。

実施先	よかったところ
京極町	・実習プログラム一つということではなく、プログラムの進行を通して学生がどんどん成長していく姿が見れたこと。 ・地域住民との交流について、よりソーシャルワーカーの視点で取り組んでいただけたこと（インテーク、アセスメント、インターベション一連の流れを学生主体で実施していただき、振り返りを行いより学びを深めていただけた）。
喜茂別町	・たまたま2年連続同じ学生が来たことで、本人たちの能力に合ったプログラムが提供できたところ。また、支援対象者を高齢者にしぼらずに地域福祉を考える機会を提供できたこと。 ・プログラムの集大成として、クレープ作りイベントがあり、そこに向かって実習が進められた点。 ・事業を企画、運営する中でのソーシャルワークの展開を学んだこと。
浦河町① (8/5～9)	自法人にとどまらない多職種連携の場面やプログラムの企画があったこと（地域で子育て夏休みの企画等）。
浦河町② (8/19～30)	浦河町内にとどまらず日高東部3町にかかるプログラムを取り入れたこと（様似町の方への訪問やえりも町のプログラム等）。
夕張市	行政と民間双方で活躍している夕張市民のお話を聞くことが出来たこと。
和寒町	地域行事に参加することで高齢者や子どもたちとの交流が行えたこと。
遠別町	一次産業体験でそこで働く日本人、外国人技能実習生から話を聞くことで、地域には様々な福祉の対象となる住民がいて様々な生活があることを知ってもらえたこと。
苫小牧市	初日の市内散策のほか、当市の特徴的な現場を体験できた点。

⑤プログラムの改善点

今回実施したプログラムの改善点として、遠別町や喜茂別町では宿泊環境の確保、京極町・喜茂別町・苫小牧市ではプログラムの適切性、夕張市や和寒町では町のリアルティを伝える機会の創出、浦河町では休暇中の過ごし方に課題が挙げられた。詳細は下記の通り。

実施先	改善点
遠別町	町の良さを知ってもらうためにみんな当町に宿泊してもらいたかった。宿泊場所が町内に十分確保できなかったのも、できれば町内で全員分確保できた方が、体験時間以外にも学生同士の交流も深まってよかったのではないかと思った。
京極町	・コンテンツを盛り込みすぎた感があり、学生が大変だったと思う。もう少しプログラムの目標に基づいてコンテンツを減らしても良いと思った。 ・前述したことは良かったことである一方、そもそもの当事業の狙いから乖離したプログラムとなっていなかったか心配であった。ソーシャルワークについて学ぶ事が前のめりになり過ぎると、既存のソーシャルワーク実習とのすみ分けも考えなくてはならないと考える。
喜茂別町	・プログラム内容の早期決定。 ・感染症の発生で実習内容が急遽変更せざるを得ない場合の副案の準備。 ・実習期間の快適な住居の提供。 ・コンテンツの詰め込み過ぎ感が否めなかった点。 ・余裕が少ない日程。
苫小牧市	転籍により福祉職への興味が持ちにくい学生に適したプログラム作りやアプローチの在り方。
夕張市	市民の普段の生活そのものを伝えする機会も作れたらよかったかと思う。
和寒町	夜のプログラムや昼食をまたいでのプログラムから時間的な制約もあり、商店街など街の雰囲気に触れる機会が少なくなった所があった。
浦河町	期間が長かったので休みの過ごし方等のオリエンテーション。

⑥地方部におけるインターンシップの実施に対する意見

地方でのインターンシップ実施に対する意見として、和寒町や遠別町では社会資源の不足から、専門的な指導やソーシャルワークに重きを置く実習の難しさが指摘された。京極町では、経験の少ない地域への支援策や広域モデルの拡充が求められ、喜茂別町では受入れ対象の拡大や都会と地方を比較する体験の導入が提案された。苫小牧市と浦河町では、学生への基本的なマナーなどの事前教育の必要性が挙げられた。詳細は下記の通り。

実施先	意見
遠別町	・社会福祉士がいらないため専門的な指導が難しい。 ・受け入れ側も毎日フィードバックを行うことで、学生と共に町の良さを再確認できた。町民も学生の訪問を喜んでおり、実施して良かったと感じた。
京極町	・インターンシップを受け入れたいけどノウハウがなく自信がない機関に対して、プログラム作成の助言や教材を提供するなど、受け入れ機関を支える取り組みが進めばよいと思う。 ・少しずつでも近隣町村と当事業をもって繋がり、広域モデルの拡充を図りたい。
喜茂別	・地方部にいるソーシャルワークを行うのは社会福祉士のみならず、精神保健福祉士もいるので、是非検討してほしい。 ・京極×喜茂別では、地域の社会福祉法人の協力を得てトレーラーハウスを借用し、実際に地域で暮らすという体験を組み入れた。 ・実習により得られる学びに加え、地方部での生活体験ができたことにより、地方部で働き生活をするイメージを持ってもらえたのではないかな。 ・学校での実習経験を経ずに、いきなり地方でのインターンシップに参加するのは、田舎の不便さもあり厳しいかもしれない。地方の良さや大変さを知るためには、まず都会での実習を経験し、比較できるようにした方がよいのではないかな。
苫小牧市	マンパワー不足はどの地域においても共通の課題であり、また学生が地方部で現場を体験することは就職へのイメージを持てるため、インターンシップの実施は意義のあるものである。他方、多忙な地域関係者へ協力をいただくことから、基本的なマナーや参加意欲など、学校側での事前準備があると、学生、受け入れ自治体双方にとってより良いものになるかと思う。
夕張市	夕張にも働きに来たいと思えるような取り組みを行っていききたい。
和寒町	地方部は社会資源も限られておりプログラムで組めない分野もあると思われる。実習生がソーシャルワークに重きを置いている場合にその希望に沿いきれないところがある。
浦河町 ① (8/5～9)	ソーシャルワークの魅力と地方部の魅力を両方知っていただく機会として貴重だと思う。
浦河町 ② (8/19～30)	5日間と10日間の両方の日程で受け入れてみたが、5日は短く感じ、10日は長すぎた。特に途中で休みを挟むため、学生が人間関係の距離の取り方などに苦労した。普段、養成校の先生方が実習前に学生を徹底的に整えて送り出してくれていることを実感した。

(3) 学生による評価

インターンシップの成果と課題を明確にするため、参加学生を対象にアンケート調査およびインタビュー調査を実施した。

①アンケート調査

【調査概要】

実施期間	2024 年 9 月 6 日（金）～2024 年 9 月 15 日（日）
実施方法	Google フォームによるオンライン回答
回答率	100%
主な調査項目	・ 回答者の属性 ・ 地方部におけるインターンシップへの参加経験 ・ 今回のインターンシップに参加した満足度 ・ インターンシップに参加した前後の心境の変化 ・ 将来、インターンシップに参加した地域に就職する可能性 ・ 希望のプログラムの内容や体験メニュー

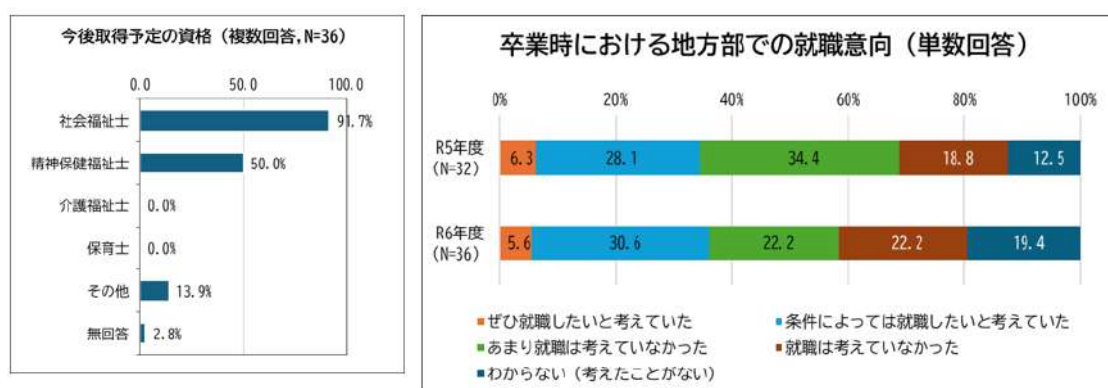
【調査結果のまとめ】

- (1) 全員から満足の声を得た。
 - ・ 宿泊先や現地の宿泊環境、食事に不満を持つ人が 1 割程度いるが、全体としては、全員から満足の評価を得ている。
- (2) 福祉専門職への理解や地方への興味が高まっている。
 - ・ インターンに参加した前後で、福祉や地方に関する認識を数値で確認した。
 - ・ その結果、インターンシップに参加することで、福祉職に関する理解度が上昇したのは 8 割近く、福祉専門職になる意思が上昇したのは 4 割近く、地方で暮らすことに対する興味が上昇したのは 6 割、地方で働くことに対する興味が上昇したのは半分以上、将来地方で就職する可能性が上昇したのは半分以上だった。
- (3) 一番の参加動機は経験を積みたいからである。
 - ・ 「場所に関係なく、福祉分野の実習やインターンシップの経験を積みたいから」という応募理由が 6 割以上を占めている。
- (4) 最も重視されているのはプログラムの内容である。
 - ・ 今回に限らず、地方での実習・インターンシップの実施先を選ぶ際に、最も重視する要素はプログラムの内容で、6 割近くがそれを重視している。

ア. 参加前の意向

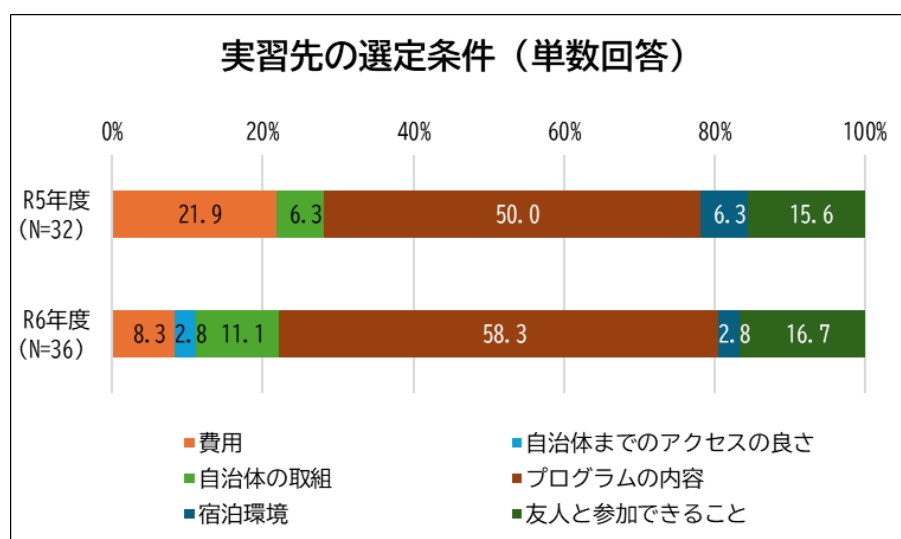
今後取得予定の資格について、「社会福祉士」が 91.7%と最も多く、次いで「精神保健福祉士」が 50.0%となっている。

今回のインターンシップに参加する前の時点で、卒業時における地方部での就職意向について、昨年度では「あまり就職は考えていなかった」が 34.4%最も多くなっているが、今年度では「条件によっては就職したいと考えていた」が 30.6%と最も多く、次いで「あまり就職は考えていなかった」と「就職は考えていなかった」がともに 22.2%となっている。

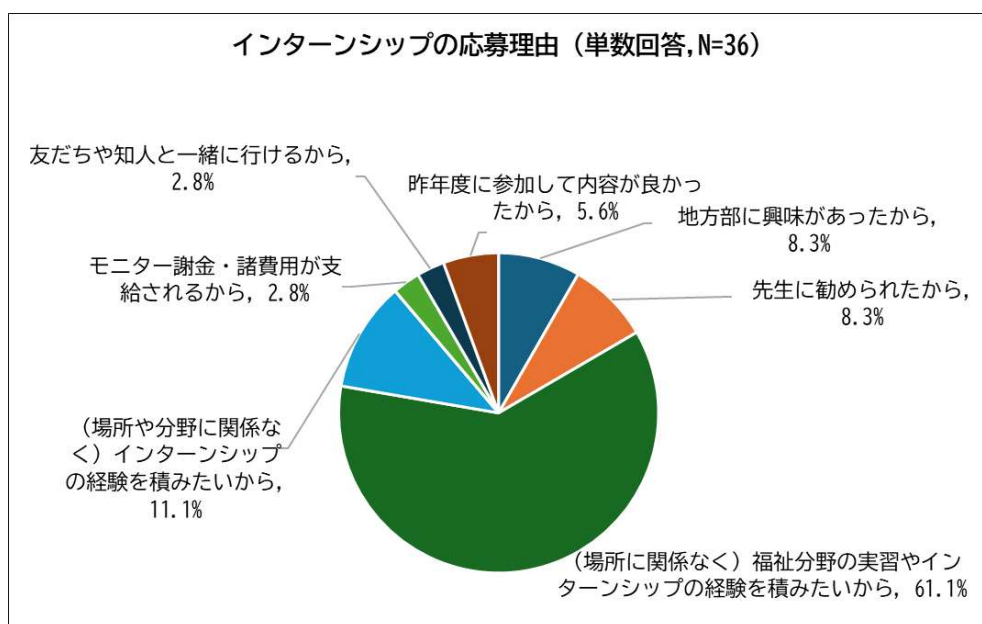


イ. 実習先の選定条件

今回に限らず、地方部での実習・インターンシップの実施先を選ぶ際に最も重視することについて、昨年度も今年度も「プログラムの内容」が最も多い。また、昨年度は「費用」が第2位だったが、今年度は「自治体の取組」の割合が昨年度より高くなっている。



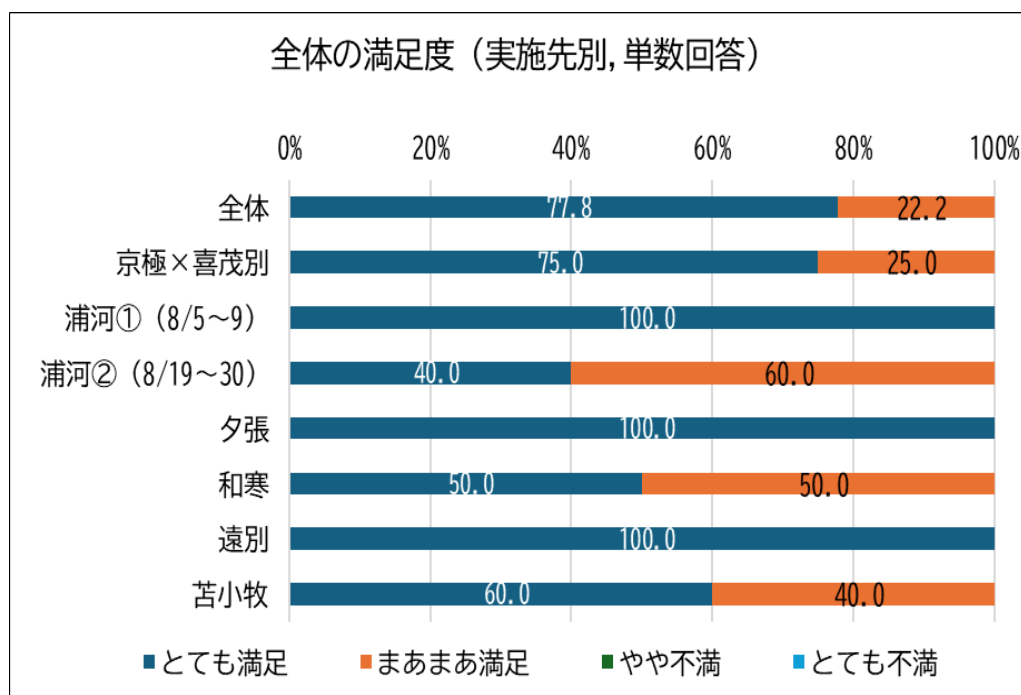
今回のインターンシップに応募した一番の理由について、「(場所に関係なく)福祉分野の実習やインターンシップの経験を積みたいから」が6割以上と最も多くなっている。



ウ. インターンシップの満足度

宿泊先の環境や食事、現地での移動手段に不満を感じた人はいたものの、インターンシップ全体の満足度については全員から満足の声を得た。

実施先別に見ると、浦河① (8/5～9)、夕張、遠別では全員が「とても満足」と回答している。昨年度と比べても大きな変化はなかった。



		とても満足	まあまあ満足	やや不満	とても不満
全体	R5年度	81.3	15.6	3.1	0.0
	R6年度	77.8	22.2	0.0	0.0
宿泊先の環境	R5年度	34.4	50.0	15.6	0.0
	R6年度	30.6	52.8	8.3	8.3
食事	R5年度	53.1	40.6	6.3	0.0
	R6年度	47.2	41.7	11.1	0.0
実施先までのアクセス	R5年度	40.6	56.3	3.1	0.0
	R6年度	30.6	61.1	0.0	8.3
現地での移動手段	R5年度	65.6	21.9	12.5	0.0
	R6年度	47.2	38.9	13.9	0.0
プログラムの内容	R5年度	87.5	9.4	3.1	0.0
	R6年度	69.4	27.8	2.8	0.0
実施前の事務局とのやり取り（事前オリ・相談対応含）	R5年度	56.3	37.5	6.3	0.0
	R6年度	58.3	38.9	2.8	0.0
実施中の事務局とのやりとり（相談対応含）	R5年度	68.8	28.1	3.1	0.0
	R6年度	66.7	30.6	0.0	2.8
実施前の実施先とのやり取り（事前オリ・相談対応含）	R5年度	68.8	31.3	0.0	0.0
	R6年度	69.4	30.6	0.0	0.0
実施中の実施先とのやりとり（相談対応含）	R5年度	84.4	15.6	0.0	0.0
	R6年度	77.8	16.7	5.6	0.0

エ. インターンシップ参加前後の変化

インターンシップに参加する前後での変化を、1を「とても低い」、5を「とても高い」として確認したところ、福祉専門職に関する理解度が上がった人は8割近くに達した。参加前は「2～3」が約9割を占めていたが、参加後は「4～5」が約7割を占めるようになった。

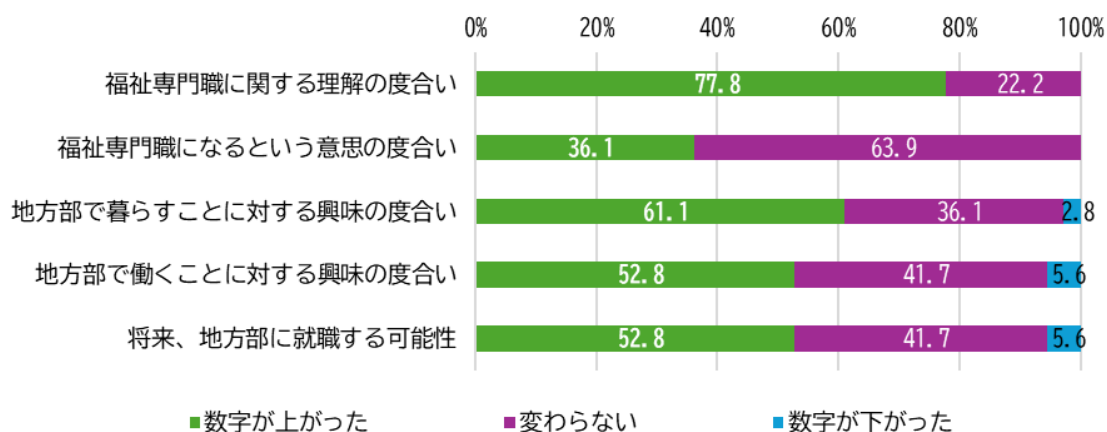
福祉専門職になるという意味が高まった人は4割近くに達した。参加前は「3～4」が約7割を占めていたが、参加後は「4～5」が約7割を占めるようになった。

地方部で暮らすことに対する興味が高まった人は6割以上に達した。参加前は「2～3」が約7割を占めていたが、参加後は「3～4」が約8割を占めるようになった。

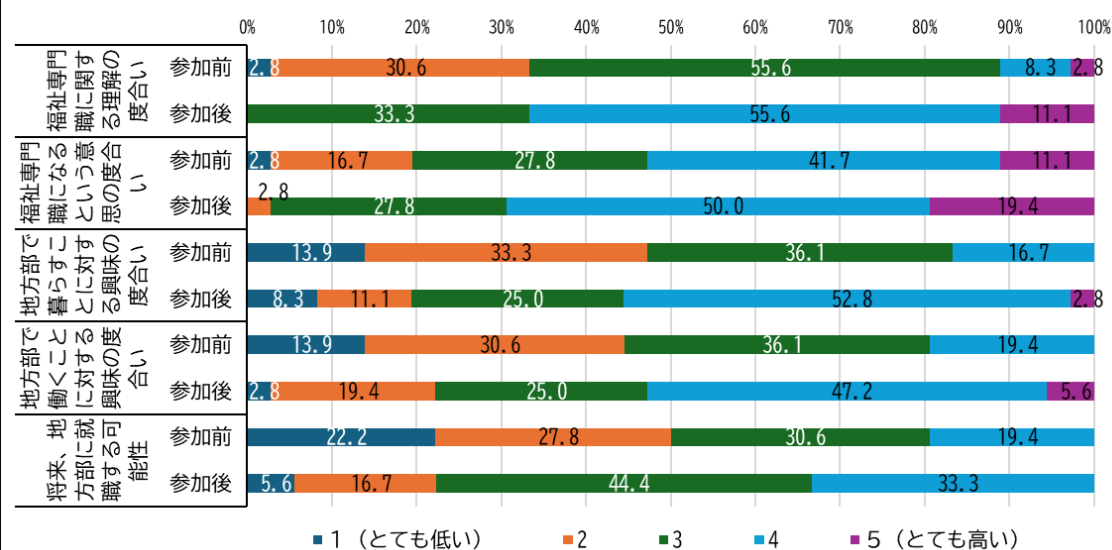
地方部で働くことに対する興味が高まった人は半分以上に達した。参加前は「2～3」が約7割を占めていたが、参加後は「3～4」が7割以上を占めるようになった。

将来、地方部に就職する可能性が上がった人は半分以上に達した。参加前は、「1～3」が約8割を占めていたが、参加後は「3～4」が約8割を占めるようになった。

インターンシップに参加前後の変化 (単数回答, N=36)

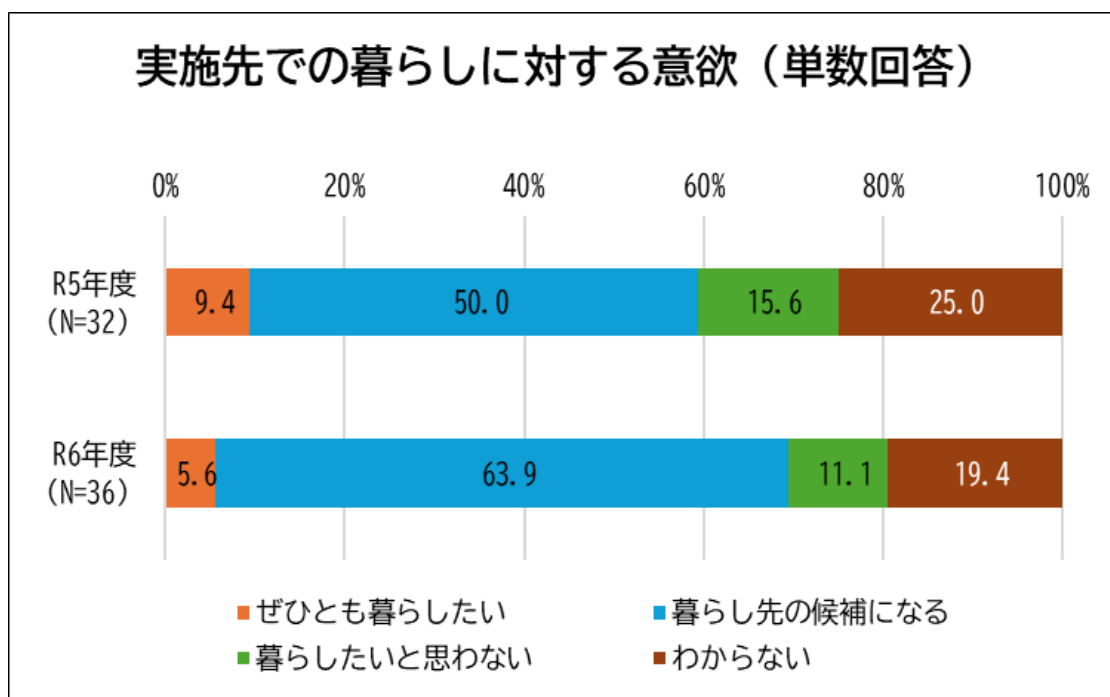


インターンシップ参加前後の変化 (単数回答, N=36)

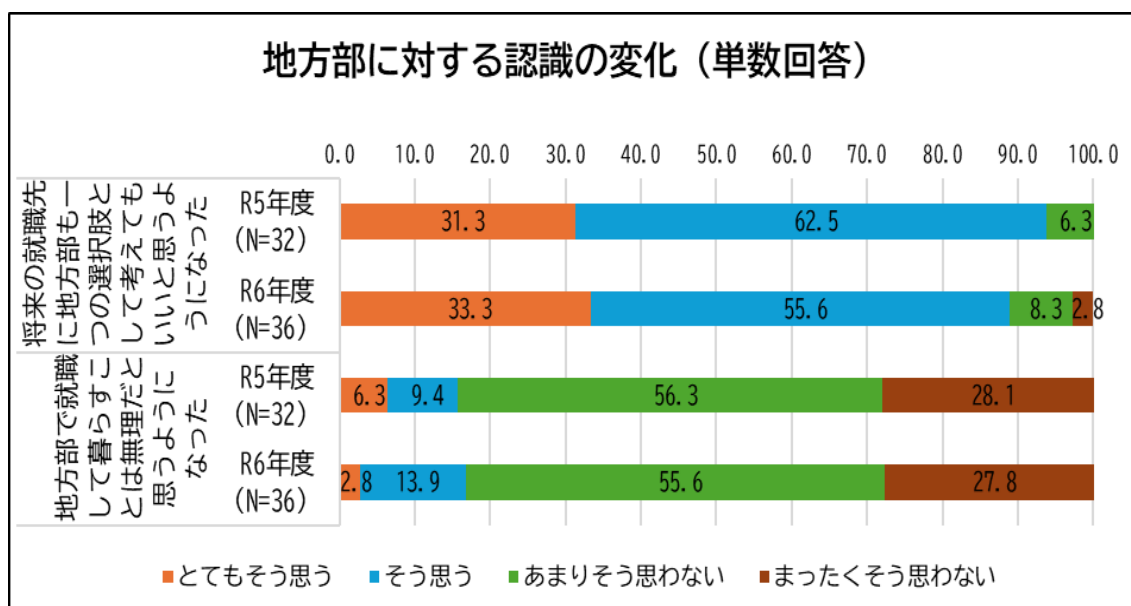


オ. 昨年度と今年度の効果比較

今回のインターンシップ実施先での暮らしについて「暮らしの候補になる」と回答した人は、昨年度（50%）より今年度（63.9%）が増加した。



昨年度と今年度で大きな差はなかったが、将来の就職先に地方部も一つの選択肢として考えられるようになったと回答した人は9割程度で、同時に「地方部で就職して暮らすのは無理だ」と思わない人は8割以上に達している。



②インタビュー調査

インターンシップに参加した学生を対象に Zoom を用いてインタビュー調査も実施した。

【調査日程】

グループ番号	実施日程	参加者
①	2024/9/17（火） 19:00～21:00	6 名
②	2024/9/18（水） 12:00～14:00	6 名
③	2024/9/24（火） 16:00～18:00	5 名
④	2024/9/25（水） 18:00～20:00	5 名
⑤	2024/9/27（金） 18:00～20:00	6 名
⑥	2024/10/4（金） 18:00～20:00	2 名

※インタビューの時間調整が難しかった学生については、ヒアリングシートを活用することで意見を収集した。

【調査の内容】

1. 自己紹介

Q1 名前、学校、学年、インターンシップの行き先、一番印象に残ったこと（良し悪しを問わず）

2. 効果（60 分程度）

Q2 インターンシップに参加して得たもの・学んだことで最も大きいことは何か？

Q3 地方部に対する自分の中での認識に変化があったか。あるならば具体的には？

Q4 インターンシップに参加して福祉の仕事への興味・関心が高まったか。その理由は。

Q5 将来、今回のインターンシップの実施先（自治体）で就職し生活する可能性はどれくらいか（大・中・小・皆無）。その理由は？

3. 課題（50 分程度）

Q6 現地に行ってみて事前の想定・イメージとは異なり課題と感じたこと／がっかりしたことはあったか。あるとすればそれは何か。

Q7 全体のプログラムの内容は、自分が期待した通りのものだったか？改善を要するところがあるか。

Q8 振り返りはどのように実施したか？実習指導者（受け入れ担当者）の指導方法につ

いて、よかったところと改善を要するところがあるか。

Q9 プログラム以外の事項（事前準備・連絡、現地でのオペレーションなど）で改善を要する点はあるか。

Q10 地方部のインターンシップ企画により多くの参加者を集めるために必要なこと／やった方がいいと思うこと。

Q11 参加する学生側として、事前に準備しておけばよかったと思うことがあるか。

【調査結果のまとめ】

(1) 未知の地方での実習は、まず1週間から始める。長期滞在には条件が必要である。

- ・ 3～5日程度なら、訪問したことのない地方に行くことへの興味が高まるが、未経験の場所で友だちもいない環境では、いきなり2週間の滞在は難しく感じる。
- ・ 60時間や180時間の滞在には、①過去に訪問したことがあること、②指導者が信頼できる人であること、③知り合いと一緒にに行けることなどの条件が整えば、ハードルが下がる。

(2) 福祉専門職として地方で働くことに魅力を感じるが、課題もある。

- ・ 札幌などでの生活や交通の利便性と地方での仕事の魅力を天秤にかけると、もう一つ刺さる要素（給料や短い勤務年数など）がないと、札幌などを選ぶ可能性が高いと考える人が多い。
- ・ 人手不足や多様な業務対応を求められる地方の専門職の働きぶりを見て、卒業直後にその職に就く自信が持てないことから、地方での仕事を敬遠する傾向がある。仕事に慣れるまで責任を負わない形で働けるなら、ハードルが下がる。

(3) インターンシップの改善点はいくつかある。

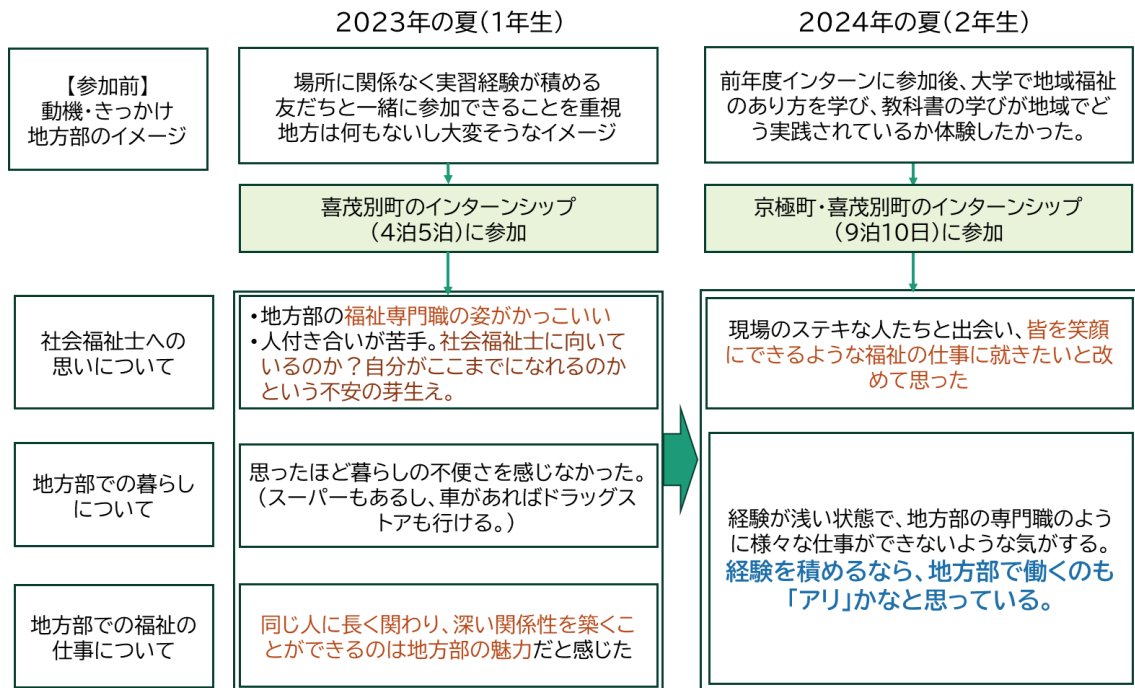
- ・ 現地での座学の時間を減らし、一部を事前オリエンテーションでオンライン形式で学習しておく方法も考えられる。
- ・ 事前に必要な知識を予習・復習しておけば、現地での体験を通じてさらに理解を深められる。
- ・ 過去のインターンシップに関する視覚的な情報があれば、応募しやすくなる。

③学生の意識変容プロセス

本インターンシップを通じて見られた学生の意識変容のプロセスについて、典型的な事例として、以下の5つのパターンに整理した。

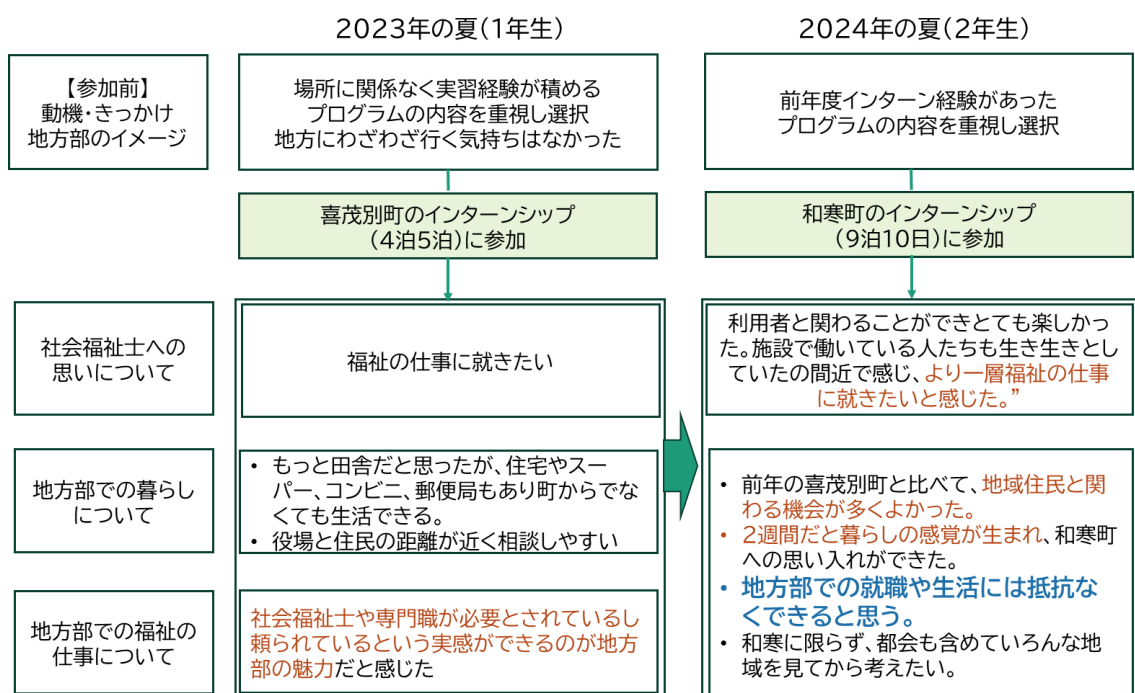
【事例①】

経験を積めるなら、地方部で働くのも「アリ」かなと思っている
【Aさん(北星学園大学2年生、女性、札幌市出身)】



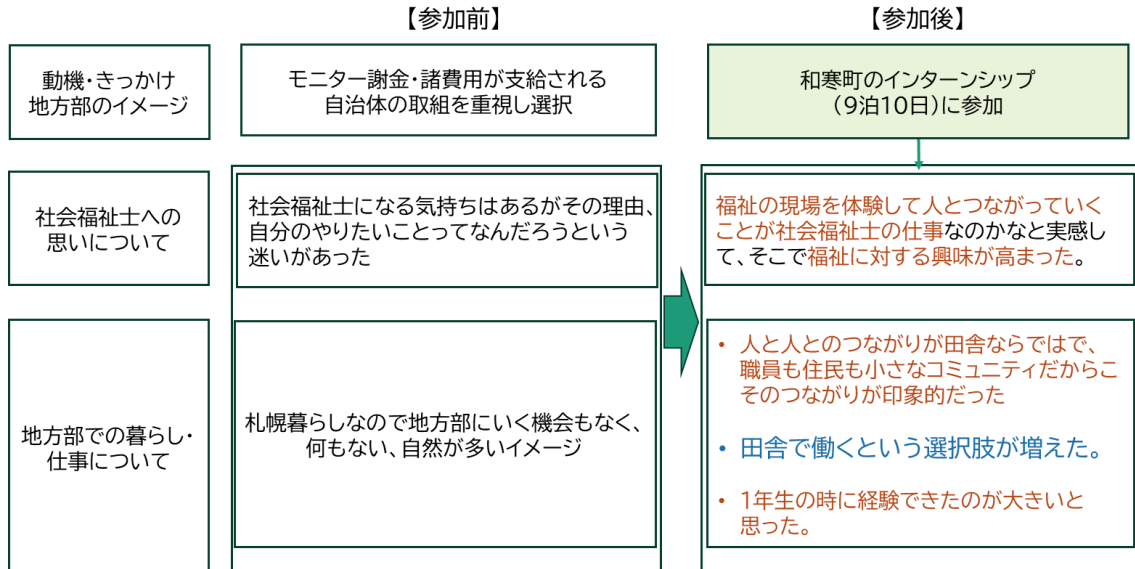
【事例②】

住民との関わりを実感できる。地方部での就職や生活には抵抗なくできている
【Bさん(北星学園大学2年生、女性、小樽市出身)】



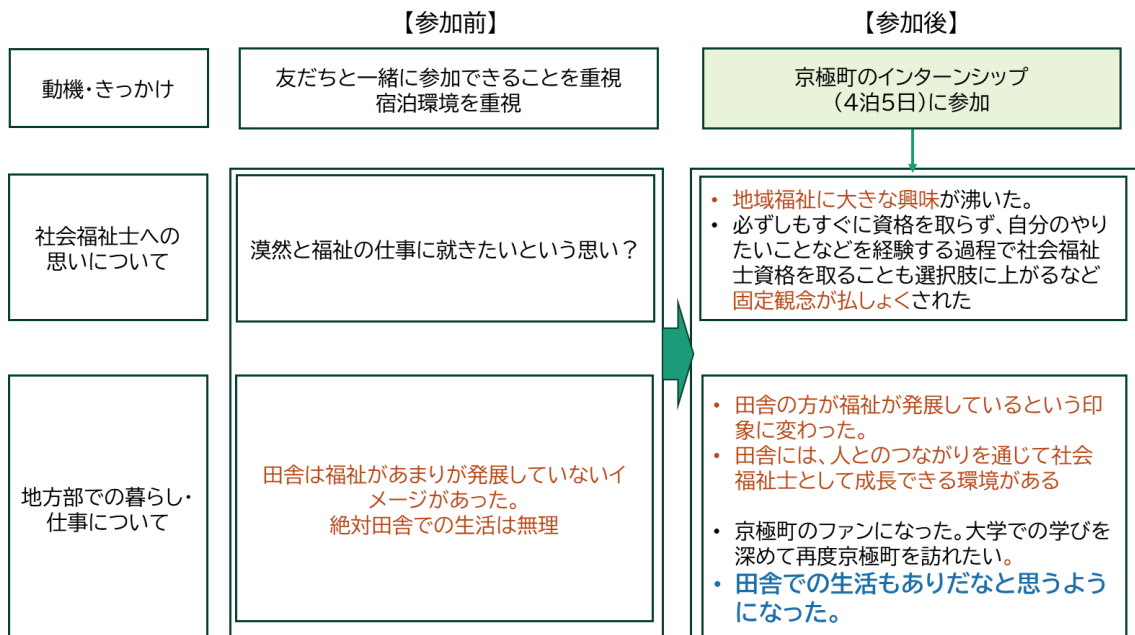
【事例③】

人と人との繋がりが見える。田舎で働くという選択肢が増えた。
【Cさん(北星学園大学1年生、男性、札幌市出身)】



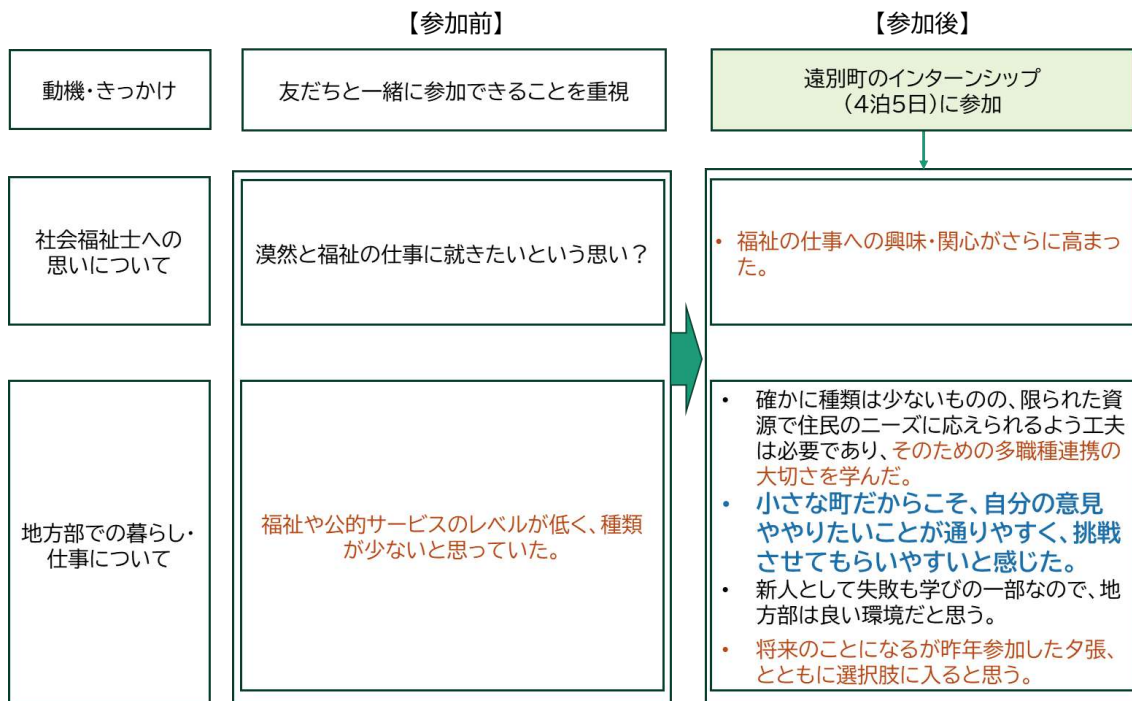
【事例④】

人とのつながりが社会福祉士として成長できる。田舎もありだなと思うようになった。
【Dさん(北星学園大学1年生、男性、出身地??)】



【事例⑤】

小さい町だからこそ、チャレンジさせてもらえる環境がある。
Eさん(北星学園大学2年生、女性、札幌市出身)



【事例⑥】

小さい町だからこそそのあたたかさがある。就職の可能性は大。
Fさん(北星学園大学1年生、男性、恵庭市出身)

